

猪苗代町木地小屋地区

1 想定するモデルとしての姿、モデルとする事項

- 積雪が多く春先等の栽培条件が不利な地域において、転作小麦の収量安定化を図り、規模拡大を実現する。
- 地域で合意形成を図り、作業の効率化に向けた団地化を推進する。



2 生産概要（中心的な担い手の概要）

- 【作付面積】小麦(水田+畑地)：12.3ha(R3) → 37.7ha(R5)
- 山間地の農地を積極的に借り受け、自営のそば店で利用するそばや小麦を個人で作付している。
- そばとの二毛作としてH30から小麦を栽培している。



3 取組のポイント（モデルとして構築する取組）

<機械導入による作業の省力化・効率化>

- 補助事業を活用し、農薬散布用ドローン、サブソイラ、ドリルシーダ、乾燥機等を導入しており、面積拡大への対応や作業の省力化・効率化を図っている。



<品質の高い小麦生産のため適期作業を徹底>

- 実需者を含む関係機関と栽培方法を検討し、適期作業に努めている。
- 土壌分析を実施し、結果に対応した栽培管理を行うことにより、品質・収量の向上に努めている。



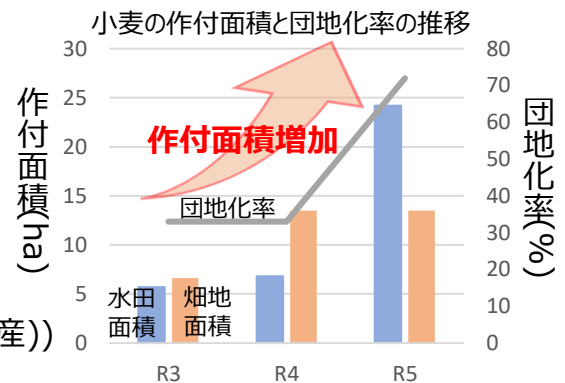
4 取組成果

<小麦生産の面積拡大を実現>

- 周辺地区への作付を開始し、大幅に面積を拡大。
(面積：水田 5.7ha(R3年産) → 24.2ha(R5年産)
畑地 6.6ha(R3年産) → 13.5ha(R5年産))

<安定した農業所得の確保>

- 周辺地区との合意形成により、団地化率が向上。
(2ha以上の団地化率：33%(R3年産)→72%(R5年産))



5 課題（6年度のポイント）

- そばと小麦の二毛作により、播種、収穫作業が遅れがちになること、また雑草の多発するほ場があり、平均単収は低い。生育に合わせた追肥量の調整・適期散布、雑草の適期防除を支援し、収量向上を目指す。